

令和7年7月22日

意見発表

◆小野寺慎一郎委員

本委員会に付託された令和7年度一般会計6月補正予算(2)債務負担行為について及び3施設の指定管理者の指定についての議案に対しては、公明党として賛成することを初めに表明をしておきます。

その上で、先日質疑をいたしました二つの項目について、改めて意見、要望を申し上げたいと思います。

E Vの普及促進に向けて、温室効果ガスの排出量の多い事業用の車両に補助をシフトしたことは、一定評価したいというふうに思います。一方で、一般のユーザーがE Vに乗り換えやすい環境をつくることにも引き続き力を入れていく必要があると考えます。

他会派の質疑にもございました充電設備の増設を後押しすること、そして、私が指摘したH VやP H Vと比べて極端に低いリセールバリュー、いわゆる中古車市場で言うところの残価率、これを上げていくことも不可欠だというふうに考えています。

リセールバリューの低さは、E Vの価格の半分を占めるともいわれるバッテリーの残存価値が正当に評価されていないことに一因があると考えています。充電の繰り返しにより容量が減ってしまったバッテリーでも、定置用蓄電池や災害時の非常用電源としては十分に再利用が可能ということは、神奈川県が国に先駆けて行った実証事業等でも明らかになっています。

本委員会の質疑では、中古バッテリーの供給量が少ないことや、運搬コスト等の課題があるとの答弁を頂きましたが、県が本気でE Vの普及が温室効果ガスの削減に資すると考えているのならば、それらの課題解決にも積極的に動いていただきたいと思います。

日産自動車の追浜工場で生産されていたリーフは、神奈川生まれの神奈川育ちの車とうたわれていました。リーフで使われていたバッテリーを再利用した定置式あるいは可搬式の製品は、県内の企業でも製造されています。普及の一助として、ふるさと納税の返礼品にするなどの後押しをしてもよいのではないかと思いますので、関係部局とともに検討をお願いしたいというふうに考えています。

次に、全国的に熊による人身被害が増えています。

先日も北海道で2人の人を襲い、死に至らしめたヒグマが駆除されたというニュースがございました。熊の個体そのものが増加していることに加え、山林の荒廃などが熊を人里に迫りやっていることなどが原因と言われておりますが、人の住まなくなった集落や耕作放棄地を放置しないことや、熊が身を隠しやすいやぶを刈り払うなど、熊を人里に近づけない工夫をさらに講じていくことが本県にも求められていると思います。

また、登山などで山に入った人が熊との予期せぬ遭遇を避ける、あるいは遭遇してしまったときの被害を防止するために、本県でもリーフレット等を通じて

注意喚起をしていることは承知をしていますが、ふだん野生動物に接する機会のない人は適切な行動ができないという専門家の指摘もあります。環境省や人身被害が深刻な他県の実績などを参考に、体系的なマニュアルを策定し、ウェブなどで登山者や中山間地域の住民の皆さんに周知することも必要ではないかと考えています。

本県においては、ツキノワグマは絶滅危惧種に指定されていることもあり、学習放獣を基本としています。また、錯誤捕獲を生じた際には、捕獲個体や捕獲従事者及び住民の安全を確保した上で速やかに放獣することとされていますが、ツキノワグマの場合、捕獲者自らの手で放獣することは危険なことから殺処分されるケースもあり、放獣のための体制整備が求められていると考えます。市町村の十分な理解の下、放獣場所をあらかじめ確保しておくことも必要ではないかと考えているところです。

以上、意見発表といたします。ありがとうございました。